

令和7年度 第2回高梁市在宅医療・介護連携推進協議会要旨

日 時 令和8年2月13日（金）19時～

場 所 高梁市役所 2階保健センター

司会進行 秋森所長

<lineworks> 鶴見委員、松浦委員

1 開 会

2 あ い さ つ

仲田会長：今年度の報告と次年度に向けて皆さんのご意見をお聞きしたい。旭日双光章を受賞できたのも、この会議に参加したことがスタートだった気がします。11月末に皇居で天皇陛下にお会いできました。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 協 議 事 項

(1) 今年度の事業報告

事務局(倉橋)・かんごねっと(原田委員)・実務者部会(三尾部会長)より報告。

(2) 来年度に向けての課題と方向性

- ・市民公開講座の日程 令和8年11月8日（日）PM
- 事務局案の主な実施内容は、ACPの普及啓発について
- ・次年度事業等で意見があれば、引き続き事務局へ提案する。

4 そ の 他

救急搬送状況について

5 閉 会

草野副会長：熱心な協議ありがとうございました。この会議の当初は、毎月1回やっていた。続けることが大事であるが難しい。こういった動きが次の地域を作っていく。来年度もますます連携をお願いします。

会議要旨

3 協議事項

(1) 今年度の事業報告

仲田会長：かんごねっとの取組みが、県医師会から良い取り組みであると褒められた。

新入職者研修会は、市全体で取り組んでいるが、他ではあまりないのではないか。どんどんPRして行って欲しい。

野村委員：ラインワークスを80%以上の方が継続するとの回答。やめる理由は？

事務局：ラインワークスでのつながりがない事業所と、事業を閉める予定であるとの2事業所より継続しないとの回答をもらっている。継続利用が未定の事業所は、法人か決めるので不明である、というのが主な理由でした。

野村委員：かんごねっとの取組みが上手くいくのは、この地域の規模だから。積極的なPRをしなくても、こういった取り組みが必要な地域が高梁市へ学びにくるのでは。

ママサポート119の取組みも、必要な事であるから徐々に取組みが知られていっている。地道な活動をしていく事で良いのでは。

磯村委員：かんごねっと研修が様々あるが、介護職の研修参加率が少ないのが現状。介護現場の人が研修参加すると刺激になる。活動を伝えていきたい。

竹崎委員：新人看護師の施設を超えた集合は、とても良い刺激になっている。

看護研究はハードな業務だが、一生懸命取り組んでおられる。

この地域だからできる研修形態なのだと感じる。

仲田会長：施設職員のために、ハイブリットで研修ができると多くの人に参加できるのではないか。

事務局：そういった開催も検討します。

佐藤委員：奈義町へ行った時に、行政と社会福祉協議会の横のつながりができていると感じた。高梁でもそういった横の取組みが出来ると、何かとスムーズになるのではないか

森宗委員：救急でいうと、在宅の方の取組みを聞いて連携していただき助かっている。ママサポの話が出たので触れたい。2015年から運用を開始。88件の搬送。1322人が登録。年間10件程度の搬送がある事になる。

本日消防で指導救命士が企画し勉強会を行った。ACPについて、成羽病院の藤原医師より発表があった。資料を提供しても良い許可をいただいたので、皆さんにも共有したい。

仲田会長：大変な資料をありがとうございます。また持ち帰って、内容を良く確認したいと思います。

(2) 来年度に向けての課題と方向性

仲田会長：来年度の市民公開講座について、事務局案はありますか。

事務局：市民向けに再度ACPの普及啓発を実施したいと思いますが、皆さんからご意見があればお伺いしたい。

仲田会長：来年度の市民公開講座や取組みたい事業で、ご希望等があれば事務局へお知らせをしてもらいたい。

皆さんの任期が、ここでいったん終了となる。継続する人、しない人もいるかと思いますが、皆さんのご感想をお聞きしたい。

三尾委員：在宅医療と介護連携について、この会に参加して内容を知れたことが良かった。実務者の取組みが、少しでも貢献につながったのではと思う。

荒木委員：栄養士会から参加。横のつながりができ、色々な取り組みを知れた。今後も勉強していきたい。

原田委員：2年間あっという間でした。今後もコツコツやっていきたい。多くの施設職員の参加があるとつながっていく感じ。

植田委員：高梁での取り組みが知れた。継続して普及していきたい。

惣田委員：医療従事者の定着に向けてPRしていきたい。

竹崎委員：在宅医療と介護連携は、中山間地域を問わず大きな問題。大学としても、地域連携・地域貢献を掲げており、地域と関われる大学を目指している。ACPについても、その人らしい人生をサポートできたら。

佐藤委員：色々な人とつながりができた。

熊本委員：地域にも誇れる活動が出来ている。地域に目を向けた、医療人でありたい。研修参加にも継続して声掛けしていきたい。

森宗委員：幅広い活動が勉強になった。引き続き、消防として関わっていきたい。

田頭委員：かんごねっとのような取り組みをしていることは素晴らしい。保健所も企画会議に参加している。全国的な人材不足だと思うが、良い取り組みをしているので、一緒に考えていきたい。

磯村委員：介護と医療は密接な関係にある。WEB研修により刺激や知識を身に着けたい。

笹川委員：多職種の活動に関心している。薬剤師として、市に貢献できるかいつも考えている。薬局は、介護事業所としての側面もあるので、今後も横のつながりを大事にしたい。

樋口委員：歯科は市の在宅医療の中になかなか入っていけていない。オーラルフレイル等でサポートしていきたい。

草野副会長：「高梁らしさ」「顔が見える関係」「相手の仕事分かる」この地域だからこそ土台があるから連携できる。本日は、大変うれしい言葉が聞けました。

野村委員：継続することが大切で難しいこと。横のつながりは大切だが、訪問看護と往診が重ならないように。一部連携不足も感じる。小さい所から広げていきたい。

仲田委員：この会議が始まった時からいる。12年前に保健所長とともに、地域で1つになっていくためには、事務局機能がいるという事で「かんごねっと」が始まった、今は、県から市へ受け継がれている。この会を通じて他の人の仕事分かるようになり、繋がれるようになった。地域の理想を伝えていけば協力しあったり、予算がついたりと何とか地道に進んでいくものと実感した。良い会ができていると感じているので、発展してもらいたい。

鶴見委員 市内のつながりができました。この輪を広げていき、繋がりを持って仕事をしていければと思います。

4 そ の 他

救急搬送状況について

仲田会長：資料の中の「死亡」というのは

森宗委員：搬送後に死亡した、という意味になります。